



令和8年6月30日（火）川崎市立西丸子小学校

## 全体を見て、相手を思う

校長 吉村 あかね

今年の梅雨はあまり気温が上がらず、これまで熱中症の心配とは縁遠く過ごしてくることができほっとしています。梅雨があければ、本格的な暑さが訪れるでしょう。保護者の皆様には熱中症対策へのご協力についても、別途改めてお願いさせていただきます。

ただし、台風には悩まされました。6月2日から3日にかけての台風は、ちょうど登校中や午前の学校活動に影響が出そうだったため、朝の出勤が困難になることを想定し、私は学校に留まることにしました。こうなったら腹を据えて夜中じゅう溜まった仕事でも片付けようかと思っていました。ところが、夕方に立ち上げられた役所の災害対策本部の連絡が夜中じゅうリアルタイムで届けられるのです。約1時間おきに「〇〇部署、〇時〇分より〇〇に参集。」のような連絡から、「先ほどの会議で決定された内容の共有です」と、気象庁が発表する警報等の予報と合わせて、避難所開設の予定等も配信されてきました。私は子ども達の安全をどうやって守ろうか、とそのことにばかりに気がとられていましたが、川崎市全体では、土砂崩れを心配しなければならない地域、川の氾濫を危惧する地域、高齢者の非難について、そして、だれがどのタイミングでどの任務に割り当てられるか、考えなければならないことが山のようにあることが伝わってきました。そして、沢山の指示の中に、学校現場に向けての通達も出されました。そこから、与えられた通達の中でいかに安全を確保して登下校を行うか、教職員に向けて指示を出しました・・・組織として円滑に任務を遂行するために自分にできることを、一人一人が考えるきっかけとなった2日間でした。

考えてみると、台風対応だけではありません。私達は、日々必ず誰かと関わりながら生きています。つながりを自覚して行動できることもあります。つながりを自覚できないまま誰かに助けられ、誰かが段取りをしてくれた中で、安心して行動できていることがたくさんあるのではないかと思います。ついつい余裕がない時など、周囲のやっていることが気に障ったり、誰も自分のために動いてくれないと感じたりすることもあるかもしれません。でも、誰かを責める前に、相手の気持ちや考えを想像する、自分にできることを考える、そんな風に考えられるよう、心が弱っていない時に自分に言い聞かせておきたいと思いました。

子ども達に思いやりの心を育てることは、学校でできる大切な学びの一つだと思っています。私自身も、子ども達と一緒に思いやりの心を深めながら、子ども達とともに歩んでいきたいと思っています。それが、いま求められている学力観、主体的で探究的な学びをめざす子ども達に大切な姿勢であると考えます。学校という社会の中で、時には失敗しながら、